

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和02年07月29日

計画の名称	姫路駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業												
計画の期間	平成29年度～平成31年度（3年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	姫路市												
計画の目標	世界文化遺産・姫路城を擁する中核市及び西播磨テクノポリスの母都市にふさわしい、賑わいと感動のあふれる姫路駅周辺の再生 ・大規模集客施設の整備や新たな民間施設の立地誘導により、市街地の活性化やコンパクトシティの実現に貢献する拠点づくり ・新たな都市機能施設やにぎわい施設の中で、人々が集い、賑わい、交流するまちづくり ・行政と市民、民間事業者等の連携・協働でのまちづくり												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	3,537	A	3,520	B	0	C	17	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0.48	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値	最終目標値 (H33末)
1	新たな魅力の創出と移動環境の向上による回遊性の向上の効果として、歩行者・自転車通行量を増加させる。 中心市街地における、一日あたりの歩行者・自転車通行量（7箇所の合計）を測定する。	63639人	人	83700人
2	都心部の魅力向上や交通利便性の向上による中心市街地への効果の波及として、鉄道乗降客数を増加させる。 JR姫路駅及び山陽電鉄姫路駅の、一日あたりの平均乗車人数を測定する。	63236人	人	66786人
3	姫路駅南駅前広場整備によるピーク時の交通混雑を減少させる。 姫路駅南駅前広場における、ピーク時の通過車両数の合計を測定する。	222台	台	155台
4	大手前通りの再整備によるにぎわい創出の効果として、イベント開催数を増加させる。 中心市街地における、公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数を測定する。	286件	件	321件

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H29	H30	H31	R02	R03			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	姫路市	直接	姫路市	—	—	姫路駅周辺地区（第2期） 都市再生整備計画事業	A=97ha	姫路市	■	■	■			3,520		—
旧要素事業番号：A-1																			
											小計						3,520		
											合計						3,520		

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H29	H30	H31	R02	R03			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	C10-001	都市再生	一般	姫路市	直接	姫路市	—	—	コミュニティサイクル事業	サイクルポート20箇所	姫路市	■					17	—	
		姫路駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業と一体的に実施することにより、公共交通の新たな端末交通手段としてコミュニティサイクル事業を実施し、都心部の回遊性を高める。																	
		旧要素事業番号：C-1																	
											小計						17		
											合計						17		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H29	H30	H31	R02	
配分額 (a)	935	397	206	0	
計画別流用増△減額 (b)	0	0	0	0	
交付額 (c=a+b)	935	397	206	0	
前年度からの繰越額 (d)	0	667	82	20	
支払済額 (e)	268	982	268	20	
翌年度繰越額 (f)	667	82	20	0	
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0	0	
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0	0	0	
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

事前評価チェックシート

計画の名称： 姫路駅周辺地区（第2期）都市再生整備計画事業

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 ①都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と定量的指標の整合性 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ④目標と事業内容の整合性 1) 目標及び事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ⑤定量的指標の明瞭性 1) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 ⑥事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ⑥事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 ⑦計画の具体性 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
III. 計画の実現可能性 ⑧円滑な事業執行の環境 1) 継続的な事業の展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 ⑧円滑な事業執行の環境 2) 関係機関等との調整が図られている。	○

(参考図面)

計画の名称	姫路駅周辺地区(第2期)都市再生整備計画事業		
計画の期間	平成29年度 ~ 平成31年度 (3年間)	交付対象	姫路市

